

実効性あるアイデアの実現に向けて！！

12月20日、京都信用金庫本店において、「京都市中小企業未来力会議」を開催！会議には、多様な業種の若手経営者の皆様をはじめ、金融機関や産業支援機関の方々など約100名に御参加いただきました。

当日は、前回会議で発表のあったアイデア等の検討状況がプレゼン・共有された後、アイデアの実現に向け、活発な意見交換が交わされました！！

～アイデア発案者からのプレゼンと参加者全員による意見交換～

融合等により、16件となったビジネスアイデアのほか、自主的な検討グループによる中小企業の持続的発展に向けた実践提案を含め、計17件のアイデアの検討状況を発表！その後、アイデアごとの実現に向けて、仮に自分が「**事業の顧客だったら？**」「**事業のパートナーだったら？**」という視点で意見交換を行いました。



<アイデアの概要・背景>

【働き方改革で中小企業の担い手を増やす】

発案者：日栄無線(株) 志磨 弘道

(概要) 働き方改革の達成目標項目を抽出し、達成した市内の事業所には京都市が認証または認定を行う。現在は、京都市、京都労働局、企業団体、大学で認知を広め、学生が安心して働ける中小企業を見つける目印となるよう、内容を検討中。

(背景) 中小企業への担い手の応募が少なく、事業の成長と拡大に大きな障壁となっている。学生や若者の中小企業に対する認知度が非常に低く、大企業と比べマイナスなイメージが強い。また、中小企業側も学生に魅力を発信する機会が無く、学生側も中小企業を認知する機会が少ないため、何か対応策がないか考えた。



【皆で使える「京都の観光おもてなしプラットフォーム」】

発案者：京なかGOZAN 桂田 佳代子

(概要) 宿泊施設や商店街、サービス事業者に、掲載したい周辺情報についてヒアリングし、簡単に使える情報のパッケージ化を整理。「京都の観光おもてなしプラットフォーム」の構築を図る。サービス提供開始後は、保守、ブラッシュアップをしつつ、連携先の獲得、広報活動を行う。現在は、ニーズヒアリングを検討中。

(背景) HPの運営は、自社の情報を発信するだけでなく、周辺にどんな観光名所があるのか、近くでどんな行事やイベントを楽しめるのかといった情報もあわせて発信することで、自社の魅力をより高め、誘客につながる事が大切である。一方で、更新が追いつかず、情報が陳腐化するケースがある。また、情報を一社で掲載するには運営費用が高くなる。そこで、そういった地域の情報を共有化し、皆で簡単に使えるよう考えた。

【本屋を活かして活性化にチャレンジ作戦】

発案者：京都府書店商業組合

(概要) 活性化に取り組みたい地域・商店街とお近くの書店を結び、出版コンテンツを利用できるよう著作権者との交渉や作家・画家のサイン会などの開催をお手伝いする。現在は、先行事例として、商店街と連携し囲碁に係るイベントの実施を検討中。

(背景) 組合員の減少については、地域・商店街の地盤沈下が原因のひとつとして考えられる。そこで逆転の発想で「書店を中心に地域を活性化することができないか」をテーマに、出版メディアが持つ多彩なコンテンツを活かして、対象となる地域の特性にスポットライトを当てる活動ができないか考えた。





【良い会社で働きたい若者と、良い会社を経営している経営者が会える“場”の創出】

発案者：シスポーツ(株) 米田 明・京都商工会議所青年部 竹村 一鷹

(概要) 出会いの場であるマッチングスポットやサイトの開設、それらのスポットやサイトを学生等に周知するための活動。現在は、前段階として、マッチングイベントの開催を目指し、内容を検討中。

(背景) 新卒で就職した人が3年以内に退職する割合が3割にもなる現状と、若年者の雇用が思うようにできない中小企業が多い現状を踏まえ、若者の中小企業への再就職を支援する仕組み作りが必要なのではないかと考えた。

【(仮称)「京都人でも知らない京都」音声観光ガイド】

発案者：サンケイデザイン(株) 吉川 忠男

(概要) ガイドブックや浅いネットでは知りえない面白いネタの収集と編集を行い、ガイドとしてビジネス化を目指す。現在は、コンテンツ(観光情報)以外の特典や、情報提供者へのインセンティブ、また、利用者の反応を吸い上げる仕組みなどの内容を検討中。

(背景) 日本人観光客(主に中高年)の「もっと深く京都を知りたい」や、外国人観光客の、「そもそも母国語での案内が少ない」という潜在需要をテキストと画像で補いながら音声ガイドで提供できないかと考えた。



【発酵食堂カモシカの健康経営コンサルティング事業～ビジネスの最前線に発酵食を注入するト～】

発案者：発酵食堂カモシカ 関 恵

(概要) 健康経営に問題意識のある企業を対象に、半年～1年間、「働く人の台所に発酵食を取り戻す」をコンセプトに、4つの具体的サービスを実施(A社員アセスメント「健康意識調査」、B企業での発酵食ワークショップ、C発酵食堂カモシカの発酵食品割引販売、D発酵食堂カモシカのSNSで取組を発信。)現在は、パイロットプロジェクトの実施のほか、複数企業をまたいだモデルの提案を検討中。

(背景) 仕事において、ハイパフォーマンスを追求し、心身ともに健康に働きつづけるには、毎日の食生活こそが重要。食生活の中の、一番基本となる「お味噌汁」、「お漬物」などの発酵食品を手づくりする習慣などを取り入れることで、食生活の根底を底上げしていけると考えており、当社で培った経験・ノウハウを生かし、忙しいビジネスパーソンの食生活の改善のために寄与できるのではと考えた。



【アグリバレー向島】

発案者：(株)中嶋農園 中嶋 直己

(概要) 地域農業が持続できる仕組みづくり。現在は、価値を提案する為に、色々な業界団体・組合(例えば料飲組合等)の集まりで講演し、思いを共有できるビジネスパートナーと出会うきっかけにできないか検討中。(アグリバレー向島と言うプラットフォームから生まれる、農業者増加、地域内経済循環促進を目指す。)

(背景) 向島にある「農地と技術・経験を持った農家」の資源を使い、食(食品加工業・飲食業・酒蔵・味噌屋等の中小企業)と農(意欲的農家及び新規就農者)の連携を促進するプラットフォームを作り、地域内経済循環を高めて、「若い農業就労人口」を増やしたいと考えた。



【もしも70代の母がスマホを使いになしたら…】70母スマ☆コミュニティ事業】

発案者：京都信用保証協会 糠谷 幸裕/重松 哲也

(概要) シニアの生きがいや生きている実感を分かち合えるコミュニティを組成するため、持続可能な収益モデルを確立したい。現在は、①シニア層へのスマホないしタブレットの使い方教室の実施。②シニアの学び直し支援、健康などのコンテンツの提供。③シニア層向け商品開発企業とシニアコミュニティを結びつけるグループインタビューの実施。④高齢者にやさしいアプリケーションの開発、ユーザビリティを十分に考えたインターフェースデザインの作成。⑤プラットフォームに集約されたデータの管理ならび分析および活用に向け、検討中。

(背景) シニアの声はネットでは見えてこない。公開データが60歳や65歳以上と一括りにされ、70歳以上の声は？本当にニーズは？高齢者はそれらしくあるべき、とお仕着せの商品も多い。現状リアルな声を聴いて、来るべき人生百年時代の社会に生かせる情報を発信していきたいと考えた。



【移住・多拠点化促進「Mobie-Cell」×「House-Core」という暮らし方】

発案者：(株)MicroNations 宮内 孝輔

(概要) 間もなく空き家が1000万軒を突破する日本。10人で空き家をシェアすると国民全員が別荘を持つことが出来る(「1億層別荘社会」)。現在は、①空き家のマッピング(見える化)。②Mobile Cell・House Coreの啓蒙。③広報活動。④広域コミュニティ化に向け、検討中。

(背景) 人口減少社会における暮らし方として、出生率の向上や移民政策に期待するより、同じ場所に一生暮らすマイホーム的価値観を見直し、テクノロジーを活かした個人の多拠点化を推進し、居住・観光の境を無くし、地域の関係人口を増やす方が活性化において現実的ではないかと考えた。





【「セルフリノベーション・インストラクター」育成プロジェクト】

発案者：京都移住計画 田村 篤史

(概要) (自分自身で自宅の床材の張り替えるなどの改修を行う)セルフリノベーションをサポートできる「素人以上・職人未満」のインストラクターを育成。現在は、同講座のプログラム作り(内容・料金体系)、育成講座の場所の確保、インストラクターの資格取得後のリノベーション案件の確保を検討中。

(背景) 移住促進の課題の1つは、移住先での仕事。例えば、新たなお店に挑戦したいなどの人にとっては、インシヤルコストを抑えて開店できる仕組みづくりの必要性が年々高くなっている。一方で、「方法が分からない」「材料が分からない」「工具がない」などの理由により、セルフリノベーションを断念するケースも少なくない。地域のなかで、暮らしを手づくりできる人が増え、こうした人々が互いに教えあうことで、「はじめる人をともにつくることで支える」ことができれば、より移住促進に関しても良い変化が起これると考えた。

【おうちごはんが手軽にできる、ママ達がつくるオーガニック調味料『PAPATTOシリーズ』の開発】

発案者：カラーズジャパン(株) 西村 和代

(概要) 手軽に使える料理素材としての調味料開発。食材を切って火を通し混ぜるだけで、本格的なおうちごはんが食卓に並ぶことを可能にする。現在は、安心安全で、かつ汎用性の高い調味料とすることができないか検討中。

(背景) 簡単にできる料理材料として多くの商品が流通しているが、化学調味料に頼るものが散見される。仲間や家族と食卓を囲むことは、会話を生み出す。食べることを中心に考えていくことは、ライフスタイルの変化をもたらす、地球環境に配慮する人づくりに寄与する。時間のない現代人が、健康や環境に配慮しつつ、美味しい食卓を囲むためにはどうしたらよいかを考えた。



【「このマチが続くための不動産の使い方」プロジェクト】

発案者：(株)コミュニティ・ラボ 田中 和彦

(概要) 利用されていない空き家を使用し、地域住民が利用できる拠点を立ち上げる。ギャラリー・工房という場所を通じて、地域(住民・伝統産業)と来街者をつなぐ。現在は、短期間で構わないので「このように使える」という事例をつくり、そのための協力者(空き家オーナー)探しのための情報発信を検討中。

(背景) 観光客の中で、「日常の京都」を楽しみたいというニーズがある。また市内には、「日常の京都」が残されているエリアも残っているが、空き家の活用はあまり進んでいない実情がある。一方、京都は文化の密集地であるが、展示する場所があまりなく、作り手が活躍できる場が少ない。そこで、未利用の不動産と作品発表/展示のマッチングを行い、地域の変化や活性化のきっかけとすることができないか考えた。



【京都職人民泊】

発案者：(株)北井 北井 秀昌・池内友禅 池内 真広

(概要) 交流型・同居型ホームシェアのゲストに対し、事業者が京都ならではのアクティビティを提供する仕組みづくり。現在は、質の高いホスト・事業者集め・ウェブサイト及びアプリなどのプラットフォームの構築を検討中。

(背景) 2018年6月に施行予定の民泊新法に伴い、多くの民泊参加が想定され、騒音・ゴミ・住環境の変化などの諸問題が予想される。体験を提供する場を持たない職人や事業者が、アクティビティを提供できるようにし、ものづくり都市である京都の作り手が、直接消費者に発信できる場を作り、伝統工芸のPRにも繋げたい。各地で民泊が問題になる中、京都のブランド価値を高める、同居型・体験型の民泊を全国に先駆けて主導する必要があると考えた。



【富裕層を対象にした高額伝統産業品の販路開拓】

発案者：(株)コムースタイル 田中 健一

(概要) 京都でしか経験出来ない「コト」、京都にしか無い「モノ」を提供し、伝統工芸の価値をストーリーとして伝えていく。現在は、体験を提供するために必要な協力者やコンテンツを検討中。

(背景) 生活に密接した伝統産業品の開発も大事だが、技術を残す、本当のモノを残すために、海外の富裕層をターゲットにマーケティングを行い、高額品を販売することにより、京都の伝統産業を守り、未来に繋げていく必要があるのではないかと考えた。



【京都の灯り未来力】

発案者：(有)中村ローソク 田川 広一

(概要) 商店街やホテルのラウンジ、小さなホールなどで、和燭燭の灯りの元、お茶会や日本画を見ることや、お酒を飲んで頂くイベント、優雅でリッチな特別な空間(宿泊施設や寺院など)でのイベントなど、ミニワークショップ実演などを飲食とともに実施。現在は、実施に向け必要な場所の提供を含めた協力者を検討中。

(背景) 物を展示しているだけでは、販売は進まない。職人が出て販売すれば売れるが、職人はもの作りをしなくてはいけない。そこで、食べ物、飲み物、工芸品、物産品などコラボして、小さなイベントを多くすることで腰を据えて買物が出来る環境を整え、京ものの魅力に付加価値を付けて販売する必要があるのではないかと考えた。





【神の木黒文字の茶・食のフランスへ行く】

発案者：樹々の会 一瀬 裕子/木下 恵子

(概要) 今後、この商品の特産品化を目指し、安定的な生産体制を確立し、更に効能や成分研究の中で、販路拡大を図る。現在は、機能性表示食品としての効能や成分の研究・検証を進めてくれる企業との連携を検討中。

(背景) 地域に多く自生しているクロモジ(クスノキ科の落葉低木)の機能性成分に着目し、健康茶、飴、入浴剤、パウダーなどの商品化に取り組んできた。6次産業「くろもじ茶・パウダー」の機能性表示食品としての活用や、漢方薬「烏樟(うしょう)」の原材料提供などすることで、高齢女性の健康・いきがいづくりのほか、「京北における森づくり、森の活性化」をすすめることができないか考えた。

【自主的な検討「中小企業の持続的発展に向けた実践提案(仮)」】

発案者：京都青年中央会 芳村 敦/伏見大手筋商店街振興組合 浅野 雄祐

(概要) 提案されたビジネスアイデアから抽出した、中小企業が直面する共通課題(①担い手不足・働き方改革、②伝統産業の活性化、③地域経済の活性化、④観光産業の活性化、⑤農商工連携)の解決に向けて、産業界、市民の皆さん、行政が一体となって取り組む「中小企業の持続的発展に向けた実践提案(仮)」を未来力会議から広く社会へ発信する。

京都の中小企業が「未来の老舗」になるために、「中小企業として社会へ提案できることはないだろうか」という視点で、産業界として何をすべきか、また、地域の一員として市民の皆さんとともに何をすべきか、行政に支援してもらいたいのはどの部分かを考え、提案し、共に実践していきたい。

(背景) 中小企業は、京都市内事業所の99%を占め、雇用の70%以上を担っている重要な存在であるが、一方で、担い手不足など中小企業に共通する喫緊の課題がある。未来力会議の世話人として、各アイデアの背景にある中小企業が直面する課題に横串を刺し、抽出した共通課題について議論したいと考えた。



～顧問からのアドバイス～

アイデアの実現や中小企業を取り巻く課題の解決に向けて、顧問から期待の言葉やアドバイスをいただきました!!

安藤 源行 京都府中小企業団体中央会 副会長



キャッシュポイントやターゲット市場の明確化を。そういった視点も含め、より実効性あるアイデアになるようご検討いただきたい。

阪口 雄次 (公財) 京都中小企業振興センター 理事長



沢山のアイデアをご提案いただいた。多様な働き方に係るアイデアは大変興味深い。「連携」をキーワードにアイデアの具体化を期待している。

増田 寿幸 京都信用金庫 理事長



担い手不足の時代。解決には従業員との対話が必要だと思う。この場には、多数の優れた経営者がお集まりだ。アイデアの更なる深化を望む。

<今後の予定>

次回会議に向けて、引き続きアイデア発案者が中心となり、連携・協力先とともにアイデアの熟度を高めていくほか、必要に応じて、グループワークを行う場所の提供等も継続してまいります。

第3回会議は、平成30年3月26日(月)です。※時間・場所は、後日お知らせします。

<お知らせ>

未来力会議の最新状況や、28年度に創出されたアイデアの進ちょく状況などをfacebookにて発信しています。ぜひ、「いいね!」や「シェア」をお願いします。

(<https://ja-jp.facebook.com/kyotoshichushokigyo/>)

<アンケートにお寄せいただいたご意見・ご感想>

- 具体的にビジネスプランやアイデアを出し合えて本当に楽しかった。
- 儲ける話が出てこないのが残念。
- アイデアサポーターにまた御相談できる機会があるなら有り難いです。
- もう少しグループ討議できる時間があればと思います。
- 皆様から多角的にアドバイス頂き、本当に刺激を頂き有難うございました。